



指導と評価の一体化

小学校では本年度から、中学校では来年度から新学習指導要領が全面実施になります。学習指導要領の改訂により、各教科における観点別学習状況の評価の観点が、**4観点から3観点**となりました。3観点ともこれまでの趣旨と大きく変わるものではありませんが、「**指導と評価の一体化**」の実現に向け、次の点の再確認をお願いします。

(1) 知識・理解

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況とともに、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。

(2) 思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

実際に評価するに当たっては、**下線部のような「場面」が、学習過程に位置付けられていることが大切**です。また、**主体的に学習に取り組む態度**は、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の**二つの側面から評価**することが求められていることにも留意する必要があります。

学習評価の基本的な考え方や各教科等における評価の実施等について、次のリンク先にまとめられていますので、ぜひ参照してください。



学習評価の在り方ハンドブック



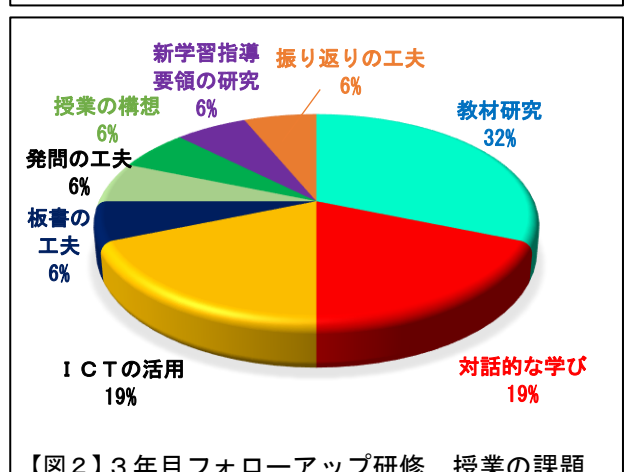
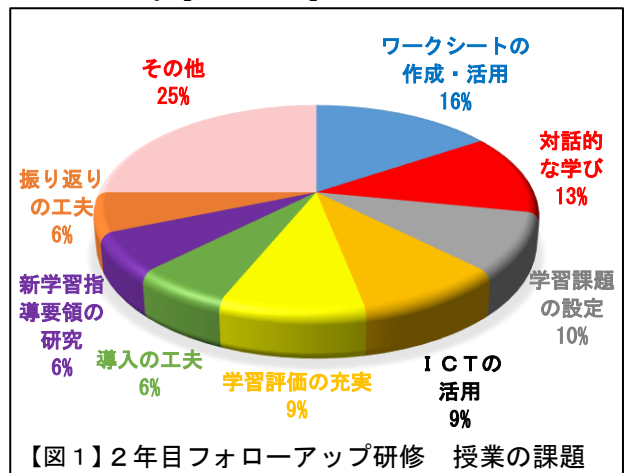
学習評価に関する参考資料

また、愛媛県においても、これらの資料に準ずる形で実践事例を作成しています。来年度にはホームページ等に掲載される予定です。

フォローアップ研修（続報）

前回、ホームページでお知らせしていた本年度のフォローアップ研修は、指導主事が受講者の学校に個別指導訪問しています。本年度の中予管内（松山市を除く）フォローアップ研修の受講者は2年目と3年目をあわせて45名です。

訪問が終了した受講者と授業について話し合う中で、次のような課題を持っていることが分かりました。【図1・2】



最も多かった課題が2年目では「ワークシートの作成・活用」、3年目では「教材研究」と異なりましたが、「対話的な学び」や「ICTの活用」、「新学習指導要領の研究」、「振り返りの工夫」という課題は共通しています。課題が明確になったことを受け、今後取り組むべき内容や方法を考えて、計画的に研修を進めてください。

学校では、フォローアップ研修を絶好の研修機会と捉え、学校全体でバックアップをしていただきました。ありがとうございました。

よいお年をお迎えください。

